



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center



元旦に、八木町室橋の文覚池^{もんがくいけ}でつがいのコウノトリを目撃しました。コウノトリは特別天然記念物であり、昭和46年に一旦絶滅しましたが、兵庫県豊岡市にある県立豊岡コウノトリ郷公園の研究施設が人工飼育と野生復帰の努力を続け、現在日本では500羽程度が生息しています。個体検索のできる足環から京丹後市久美浜町で孵化した7歳のオス(手前)と豊岡市祥雲寺の巣塔で孵化した9歳のメス(奥)のようです。今年も多くの幸運を運んで来てくれますように。

CONTENTS

■院長挨拶	①
■新年の挨拶	②
■臓器別特集 胃	③
■京都中部総合医療センター看護専門学校	⑤

■「未来のナースたちへ」	⑥
■世界糖尿病デー (World Diabetes Day) イベント	⑦
■当院の出前講座について	⑧
■令和6年度 患者満足度調査報告	⑨
■全国自治体病院学会で最優秀演題に選ばれました	⑩
■第63回全国自治体病院学会に参加して	⑩

地域医療支援病院 紹介受診重点医療機関 臨床研修病院
救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター へき地医療拠点病院
京都府地域リハビリテーション支援センター
京都府災害拠点病院(地域災害医療センター)
DMAT 指定医療機関 認知症疾患医療センター
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地

TEL 0771-42-2510(代) FAX 0771-42-2096

<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





うま

午年に「勢いと成長」を期待して

院長 辰巳 哲也

2026.1
Vol.67
新春号

病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

病院の基本方針

- 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して適切な医療を行います。
- 地域医療支援病院として、地域の医療・介護・福祉等と連携しながら、専門診療を推進して地域完結型医療の中心的役割を担います。
- 第二種感染症指定医療機関として、二類感染症もしくは新型インフルエンザ等感染症に対応した医療を提供します。
- 救急医療、周産期・小児医療、災害医療を充実させ、いつでも安心して受けられる医療を提供します。
- 地域がん診療病院として、集学的医療を推進し、高度ながん医療を行います。
- 働き方改革を推進とともに、チーム医療を強化し、医療の質・安全性を高めるため、すべての職員の資質向上に努めます。
- 公営企業としての役割を全うするため、経営効率を高め、健全経営を遂行します。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

- 説明を受ける権利
- 治療を選択する権利
- 情報を知る権利
- 個人匿名の保護を受ける権利
- 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
- 自分の健康情報を正確に提供する責務
- 説明を理解するまで問う責務
- 病院での規則に従う責務



新年明けましておめでとうございます。新春を迎え皆さまにおかれましては、お健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。今年もどうか宜しくお願ひ致します。

2025年は様々な出来事がありました。大阪の開催としては1970年以来55年振りに大阪・関西万博が開催され、多くの来場者で賑わいました。10月には自民党と日本維新の会による連立政権が発足し、さらに初の女性首相である高市早苗内閣が誕生しました。また喜ばしいこととして、ノーベル賞に坂口志文氏（大阪大学）が生理学・医学賞を、北川進氏（京都大学）が化学賞を受賞されました。スポーツで特に印象に残っている試合は米大リーグ（MLB）の2025年ワールドシリーズ最終第7戦です。劣勢であったドジャースが9回に追いついて延長戦の上、逆転でブルージェイズを破り球団初となる2年連続の優勝を果たした試合はスポーツの醍醐味を味わえる圧巻の展開でした。

一方で、完全終結の見通しが見えないロシアのウクライナ侵攻やイスラエル・パレスチナ戦争は宗教・民族・文化の対立とともに国際社会の機能不全が加わり世界平和が達成されることの難しさを感じます。また中国軍による台湾周辺での軍事演習など東シナ海・南シナ海での活動拡大は、今後の日本にも影響を及ぼしかねない安全保障上の懸念といえます。世界物価高が続く中でトランプ関税が世界経済に大きな影響を及ぼし、日本でも円安とともにコメ価格が高騰し続けました。特に医療界では世界的な原材料・エネルギー価格の高騰、輸入コストの増大とともに、人手不足による人件費・物流費の上昇が病院経営に大きな打撃を与え続けています。

さて2026年度診療報酬改定では、本体部分をプラス3.09%（2026年度国費2348億円程度）、薬価をマイナス0.86%（同マイナス1052億円程度）、材料価格をマイナス0.01%（同11億円程度）とすることが、12月24日に上野賢一郎厚生労働相と片山さつき財務相の折衝で正式に決まりました。本体部分の引き上げは10回連続で、3%台と高水準になるのは1996年度改定以来30年ぶりのことです。我々病院団体からは10%程度の引き上げ要望を出してきましたが、それには遠く及ばなかった結果となりました。今後、診療報酬のさらに詳細な内容が示されていくと思いますが、公定価格により運営する医療機関は経費の上昇分を価格に転嫁することができず、診療報酬がインフレ経済、特に急激に増加する人件費の実態に見合ったものに改定されない限り、経営改善へ向けた妙案が浮かばず、基本に立ち返った経営戦略を行うしかない状況かと考えます。

当院でも院長直属の経営戦略チームの下部組織に職員からの公募意見を反映した9つの経営戦略ワーキンググループで経営改善を図ってきたところです。職員の給与アップは喜ばしいことではありますが、人事院勧告を踏まえた給与改定に基づく支出は診療報酬によるベースアップ料をはるかに上回る見込みとなり、赤字脱出への道は遠のくでしょう。

- 2025年の「新語・流行語大賞」は高市首相の「働いて働いて働いて働いてまいります／女性首相」が年間大賞を受賞しました。私たち医療人も「ある日、突然、地域から病院がなくなる」ことのないよう働き続けなければならないのでしょうか。

2026年の干支は午（うま）年で、十干十二支では「丙午（ひのえうま）」となります。AIに尋ねてみると、60年に一度しか訪れない稀少な年で、馬は「前向き」「成功」「活気」を象徴し、新しい挑戦や発展を願う縁起の良い年とされています。今年はこの「丙午」の力強いエネルギーで、新しい挑戦に光が差し、力に満ちた年になることを願いたいものです。本年が皆さまにとって、新たな飛躍と繁栄の一年になりますように、心からお祈り致しまして。今年もどうか宜しくお願ひ申し上げます。



新年の挨拶

特別顧問 伏木 信次



初春を迎え、皆様には新たな気持ちで1年のスタートを切られたことと存じます。

顧みて、2025年（令和7年）はどのような一年であったでしょうか。国際的にはウクライナとガザにおける戦争が、一時的に平和に向かうかもとの期待を抱かせた時期がありましたものの、平和実現はほど遠いことを感じさせる残念な状況が今なお続いているです。

その一方で日本の科学界にとっては明るい話題もありました。それは日本人科学者2名のノーベル賞受賞のニュースです。受賞者は、生理学・医学賞の坂口志文先生（大阪大学）と化学賞の北川進先生（京都大学）です。お二人はかねてよりノーベル賞受賞候補に挙げられていた方であり、それぞれの研究成果の独創性とインパクトの大きさは傑出しています。近年、我が国の科学研究の沈滞がしばしば語られますが、このような喜ばしいニュースを契機にして国の科学技術政策が、世界の中での日本の位置をより一層高める方向に向かうよう期待しています。

翻って日本の医療はどうでしょうか。医療人の献身的な努力によってCOVID-19パンデミックを乗り越えたものの、少子・超高齢社会の進む中、物価高の影響も受けメディアで報じられているように多くの医療機関の経営状況は悪化しつつあります。日本国民の医療を守るために今、何を改善すべきかについて真摯に議論し、迅速かつ効果的な施策を国として実行しないことには、医療崩壊を迎えることになるのではないかとの懸念が口に上りつつあります。有識者の叡智を今こそ結集すべきでしょう。

さて2026年（令和8年）の干支は、60年に一度の「丙午（ひのえうま）」です。振り返りますと60年前の1966年には出生率が前年比で約25%減少したと記録されています。これは迷信（「丙午年生まれの女性は気性が激しい」）に基づくと考えられますが、日本の合計特殊出生率（女性が一生に生む子どもの数で、15~49歳の出生率の合計）は今や1.26（2022年現在）となり、将来人口の減少は必定とされています。女性・男性を問わず生き方の多様化が進む中ですが、丙午の迷信に振り回されることのない、堅実な歩みが続けられる1年になってほしいと願っています。

結びに、皆様のご健勝ならびにご発展を心より祈念申し上げます。

看護部長 ますたに てる よ 増谷 照代



新年あけましておめでとうございます。皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

今年は午年です。午年は新しい挑戦や飛躍に良い年とされています。

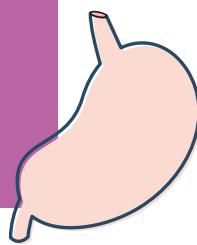
医療を取り巻く環境は年々変化し、AIの活用など新たな技術が進む中においても、私たち看護職に求められる「人に寄り添う看護」の大切さは変わりません。看護部としても、時代の変化を柔軟に受け止めながら、専門性と人間性の両立を大切にし、患者さま一人ひとりに向き合う看護を実践してまいります。

昨年は大阪・関西万博が開催され、ミャクミャクというキャラクターとともに、日本中が明るく活気に包まれました。私たち看護部内にもキャラクターがあり、オオルリの「さくら」と「ぶな」です。昔話にある青い鳥のイメージのように、皆さまに安心と希望を届けられる存在でありたいと願っています。看護部職員一同、互いを尊重し支え合いながら、温かい質の高い看護の提供に努めてまいります。

私自身、昨年は熊野古道を訪れ、那智の滝や那智勝浦で地平線から昇る朝日を目にしました。自然の雄大さに触れ、心が整い、新たな力を得ることができました。日々患者さまと向き合う中で、看護職自身が心身の健康を保つことの大切さを改めて感じております。

本年も、患者さんの安全と尊厳を守り、信頼される看護を提供できるよう、看護部一丸となって取り組んでまいります。皆さまにとって穏やかで実り多い一年となりますよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

胃



日本では、依然として胃がん患者さんは多く、年間に約12万人が新たに診断されるといわれています。しかし近年、検査技術と手術技術、および抗がん剤治療の進歩によって、胃がんは「治るがん」へと変わりつつあります。なかでも注目されているのが、体への負担を大幅に減らす「ロボット支援手術」です。

ロボット支援手術は、医師が操作する精密な機械アームを用いて行う手術で、当院ではインテュイティブ社の「ダヴィンチ Xi」を導入しています。関節の自由度が高く、手ぶれのない安定した操作が可能なため、細かな血管や神経を丁寧に温存できます。その結果、出血量が少なく、痛みの軽減や早期の回復につながります。

さらに、ロボットの精緻な動きは、胃の働きをできるだけ保つ「機能温存手術」を実現するうえでも大きな力を発揮します。胃の一部を残し、食べる・消化する・栄養を吸収するという本来の機能を保てるよう配慮することで、術後の生活の質（QOL）を高く維持することが可能になります。食事を楽しみ、元の生活に近い形で過ごせるようになる——それが私たちの目指す治療です。

手術はあくまで医師が行うのですが、ロボットは人の手を補い、より確実で安全な操作を可能にします。まるで人間の手の延長のように動くこの技術は、患者さんにとっては「体に優しい手術」を実現することができます。

私たち消化器外科チームでは、術前の内視鏡検査やCT画像をもとに、最も適した治療方針を検討しています。早期発見からロボット支援手術、そして術後のサポートまで、多職種が連携して一人ひとりの患者さんを支えています。

胃の不調や食欲低下など、気になる症状がある場合は早めの受診をお勧めします。定期的な内視鏡検査が、命を守る第一歩です。私たちは、最新の技術とチームワークで、地域の皆さんに「安心して任せいただける医療」を提供してまいります。





胃の健康を守るために

京都中部総合医療センター 消化器内科では、食道・胃・腸・肝臓・胆のう・脾臓など、消化器全般の診療を行っています。中でも胃の病気は身近で、胃炎や胃潰瘍、ピロリ菌感染、胃がんなど、誰にでも起こります。

当科では、こうした病気を早期に発見・治療するため、最新の内視鏡機器と専門医によるチーム医療体制を整えています。

苦痛の少ない“やさしい胃カメラ検査”

胃の検査の中心となるのが、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）です。

細く軟らかい細径内視鏡も導入し、従来よりも楽に検査を受けていただけます。ご希望に応じて鎮静剤を使用した“眠っている間に終わる検査”も可能です。

検査は内視鏡専門医らが丁寧に実施し、粘膜のわずかな異常も見逃しません。検査の前後には看護師が丁寧に説明を行い初めての方や不安のある方にも、安心して受けていただける環境を整えています。

診断から治療まで、一貫した体制

検査中に異常が見つかった場合は、その場で組織を採取して病理検査を行い、正確な診断につなげます。精密検査が必要な場合にはあらためて、鎮静剤を使用して最新の内視鏡機器を用いて詳細に観察します。

早期がんが見つかった際は、外科手術をせずに内視鏡で病変を切除する「内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）」などの身体に優しい低侵襲な治療を積極的に展開しています。これにより、入院期間の短縮や早期の社会復帰が可能になります。さらに、進行がんの場合でも、消化器外科や放射線科との連携によりし、病状に応じた最適な治療方針を検討しています。外科手術や最新の知見に基づいた化学療法を含め、切れ目のない治療計画を患者様一人ひとりにご提案できる体制が整っています。

胃がん予防にも力を

健診センターとも協力し、ピロリ菌の検査・除菌治療を通じて胃がんの予防にも積極的に取り組んでいます。「胃の調子が気になる」「健診で再検査をすすめられた」——そんな時は、どうぞ早めにご相談ください。

京都中部総合医療センター 消化器内科は、やさしく、確実に、そして安心できる医療で、地域の皆さまの胃の健康を守ります。

「老年看護学実習での学び」

あしだ ななか
1年生 芦田 菜々花

私は介護老人保健施設で実習を行いました。施設では治療の場である病院と違い、その人らしさを尊重し、生活を支える看護が行われていると強く感じました。また看護師には食事の摂取量や皮膚、爪の状態、日中の活動などから小さな変化を逃さない観察力が必要でありそれが利用者さんの健康維持につながることを学びました。

看護師は多職種と情報を共有することで最善の支援を行う重要な役割があることも学びました。

今回の学びを活かしその人の可能性を最大限に活かし尊重しながら信頼関係を築ける看護をしたいです。



「世界糖尿病デーに参加して」

あまかわ あね
2年生 天川 虹

今回初めて世界糖尿病デーのイベントに参加しました。薬の事や、足の状態など、日頃悩んでおられることを相談されており地域の方々と医療従事者との距離の近さに驚きました。また相談された内容から糖尿病の早期発見につながると学びました。

糖尿病デーのイベントを開催することで地域の方々の病気の早期発見につながり健康維持の方法を指導することで地域の健康を守るという大きな役割を果たしていることを学びました。



「3年間の臨地実習を終えて」

わたなべ あおい
3年生 渡邊 葵

最後の臨地実習は、夜間実習と複数の患者さんを受け持つ内容でした。複数の患者さんを受け持つ中で、対象の状態を的確に捉え、状況に応じて優先度を判断し行動する重要性を学びました。また限られた時間の中で安全に患者さんに応じた看護を行うためには優先順位を見極め事前に計画を立てることが不可欠であり、それが対象の安全とケアの質につながることを再認識しました。

今後は国家試験合格に向けて学びを深め、入院中も可能な限りその人らしく過ごせるよう支援できる看護師を目指したいです。





「未来のナースたちへ」

副看護部長 まつおか みよこ
松岡 美代子

毎年11月は、近隣の小・中学校から職業体験や出前授業の依頼があります。11月12日・13日には、亀岡市立大成中学校から看護師や助産師、ケアワーカーに興味を持った5人の生徒が職業体験にやってきました。手術室の見学や看護学校での授業体験、作業療法士や臨床工学技士、管理栄養士の仕事を学びながら、「やりがいはなんですか?」など、積極的に質問もされていました。医療に携わる私たちの事を、来る前より興味深く感じてくれたようです。この中から、未来のナースたちが誕生することを考えながら担当していました。

また、11月20日は、亀岡市立東輝中学校へ「看護師の仕事」についての出前授業に行きました。中学生が描く看護の世界は、ドラマから影響されることも多いと思います。今回は当院の看護師が主演してくれた「看護師としてのやりがい」など、生の声をとどけ、いつか地域でともに医療

を支える仲間になってほしいという願いを込め授業をさせていただきました。

京都中部総合医療センター看護部は、看護に興味のある小・中・高校生などを今後も受け入れながら、看護の世界に触れる機会を提供していきたいと思います。



私たちと一緒に
働きませんか?
共に働く仲間を
歓迎します!

副看護部長 まつおか みよこ
松岡 美代子

世界糖尿病デー (World Diabetes Day) イベント

11月14日は国際糖尿病連合（IDF）が中心となり「世界糖尿病デー (World Diabetes Day)」として認定されています。糖尿病の治療に必要なインスリンを発見した、カナダのフレデリック・バンティング博士の誕生日が11月14日であることに敬意を表すことに由来しています。世界糖尿病デーのシンボルである「ブルーサークル」は、世界的に増加を続ける糖尿病に対する意識を高め、一致団結して対策することを呼びかけるために掲げられており、世界各地で糖尿病に関するイベントが行われています。

当院でも糖尿病委員会が中心となり、2022年度からJR八木駅をシンボルカラーであるブルーにライトアップして、糖尿病に対して疾患啓発運動を行っております。

イベント当日はライトアップだけでなく、午前中に当院の大会議室にて血糖測定、栄養相談、お薬相談、フットチェック、運動療法、体組成測定、脳血管年齢測定・体脂肪測定ブースに加えて、本年度は南丹市および南丹保健所の方にご協力・ご協賛いただき、共同ブースを設け、院内イベントを行いました。南丹市・南丹保健所共同ブースでは、糖尿病疾患に関連して歯科検診や禁煙、運動について、南丹市の事業「南丹健幸ポイント」についてのシールアンケートを行っていただきました。各ブースに、京都中部総合医療センター看護専門学校の学生に授業の一環としてブース運営にご協力いただきました。

そして夕方よりJR八木駅をブルーにライトアップし、昨年度から開催しておりますナイトウォーキングを実施しました。このナイトウォーキングは、JR八木駅を出発地点、八光館をゴール地点として八木の街を歩くという企画で、通過地点である大堰川沿いに青く光る150基の灯籠を設置し、ゴール地点の八光館において大根焼きを100食限定でご用意いただきました。さらにスタート地点では、夜間のウォーキングの安全のために、京都府交通安全協会および南丹警察署の方による手作りたすき反射材を配布していました。

この企画を実施するにあたり、協賛の南丹市をはじめ京都府南丹広域振興局、南丹市商工会、南丹警察署、京都府交通安全協会、八木町南地区自治会、大堰塾など多くの方々から多大なご支援ご協力をいただきました。

この世界糖尿病デーの運動を通じて、地域住民の方々に糖尿病のことを知っていただき、病気の有無にかかわらず健康への意識を高めるきっかけになれば幸いです。

末筆ではございますが、多くの方々にお力添えいただきイベントを無事開催できましたこと、また、当日イベントに多数の方にご参加いただきましたこと、運営スタッフ一同心より厚く御礼申し上げます。



当院の出前講座について



計良夏哉副院長



山中知恵子薬剤師



2025年12月11日、京都中部総合医療センター看護専門学校の多目的ホールにおいて、出前講座『みんなの健康講座「健康に役立つ豆知識」』が開催されました。今回の講座は南丹市八木町「南地区大堰塾」代表者様からのご依頼で、当院の計良夏哉副院長と山中知恵子薬剤師が講師となり、「高齢者に多い病気やケガについて」「薬の飲み合わせ・食べ合わせと副作用」と題しての講演会でした。32名と多くの方にご参加いただき、講演後には活発な質問が飛び交いました。また、アンケートには「よい話が聞けた」「転倒に注意して過ごします」「1日6000歩のウォーキング頑張ります」等書かれており、私たち病院スタッフも、とても嬉しく思いました。このような機会をいただき、ありがとうございました。

出前講座は、『当院で提供できる「話」を通じて地域に貢献する』ことを目的に地域医療連携室が窓口となって、院内で調整し、ご依頼元と協力して開催しています。地域のみなさんに私たち医療専門職のお話を聞いていただき、日頃の生活や健康作りにひとつでもお役に立てただければと考えています。ぜひ、ご相談ください。お待ちしています。

出前講座 参加された方の感想

① 高齢者に多い病気や怪我について

計良先生の話を聞いて、転倒・骨折のリスクが大きいこと、又その予防・軽減の方法等を教わりました。私も10数年前から5年ほど関東にて工場の責任者をやったとき、従業員の安全対策をやっておったときのことが思い出されました。

又、健康は自分が作るもので人から与えられるものではないことを再認識致しました。

② 薬の飲み合わせ、食べ合わせと副作用

山中先生の話を聞いて、自分が飲んでいる薬の効果・自分の身体の何をどうする為飲んでいるかを知ることが非常に大事であることが分かりました。

又、薬の説明書をよく読み、薬の副作用を理解しておくことが大事であることを知りました（あわせて薬の飲み合わせ、お薬手帳の大切さ）。

また機会があれば宜しくお願ひします。ありがとうございました。

出前講座のご案内

当院では、住民の皆さまの健康作りを応援するため、医師や看護師などによる「出前健康講座」を行っています。地域の団体や施設、自治会などからのお申し込みに応じて、健康・病気予防・介護など、さまざまなテーマで分かりやすくお話を致します。

講座の時間は1～2時間程度で開催日はご希望日に合わせてご調整致します。

ご希望の方は、下記のお問い合わせ先までお気軽にご連絡ください。

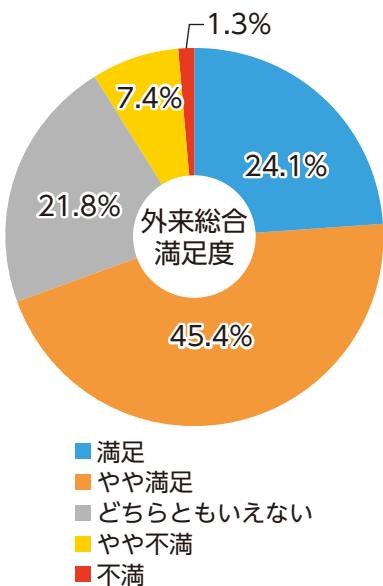
お問い合わせ先：京都中部総合医療センター 地域医療連携室 TEL：0771-42-2510（代）

令和6年度 患者満足度調査報告

当院では、患者さまへのサービス向上を図るため、「患者満足度調査」を実施しています。

令和6年度の調査結果をご報告します。アンケートは、「ご自身について」「施設について」「接遇面について」「サービス面について」「総合的について」の調査項目となっています。

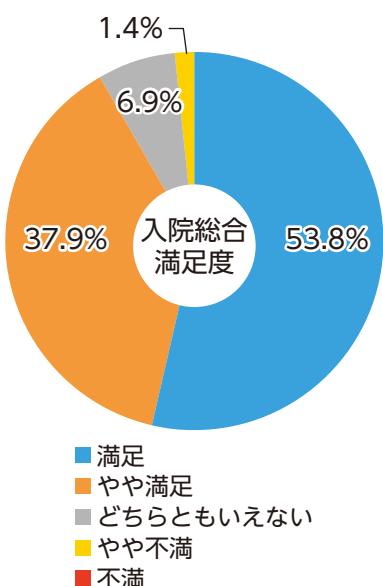
外来部門



外来部門については、2024年6月と12月にアンケート調査を実施し、6月に786名、12月は804名の方からご回答いただきました。

「ご自身について」は、約96%（前年度93%）が南丹市、亀岡市、京丹波町にお住まいの患者様でした。60代から80代の方が全体の69%、90代の方は3%でした。施設の中の「トイレの使いやすさ」62%、「駐車場の使いやすさ」が47%の方が「良くない」と評価されました。「トイレについて」は、外来棟に洋式トイレを増設致しました。「駐車場について」は、駐車場を新たに確保し来院時の混雑緩和につとめています。今後もご不便の改善に努めて参ります。「接遇面について」は「良くない」の評価は約10%でした。「サービス面」は「診察までの待ち時間」は約75%の方より待ち時間が長いという評価でした。現在、待ち時間対策を進めております。ご来院の皆様には何かと大変ご迷惑おかけして申し訳ございませんが、ご協力・ご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。「総合評価」では、約70%の方に「満足・やや満足」と評価をいただきました。今後も引き続き外来環境の改善に取り組んで参ります。

入院部門



入院部門については、2024年6月と12月にアンケート調査を実施し、6月は140名、12月は151名の方からご回答いただきました。

「ご自身について」は昨年度と同様97%が南丹市、亀岡市、京丹波町にお住まいの患者様でした。外来とより多く60代から80代の方が全体の約76%、90代の方は4%でした。「施設面について」の「病室の清潔さ」は、50%の方に良い評価をいただいておりましたが、「トイレの使いやすさ」は約40%の方が良くないと評価をいただきました。様々な個別のご意見もありましたので改善に努めて参ります。「接遇面について」は医師・看護師共に、「良くない」との評価は少ないものの一方で「良い」との評価は約70%程度でした。「プライバシーへの配慮」は、他の項目より悪い結果でした。また、一部改善のご意見もいただいております。「サービス面について」はそれぞれ約70%の方が良いと評価をいただきましたが、「食事の内容（献立）」において他の項目より悪い評価となりました。健康面への配慮が必要な面もあり、味や量などの不満足となっているかと思われます。ご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。「総合評価」では、90%以上の方が「満足・やや満足」の良い評価いただき、昨年度より7%上昇しておりました。患者様が、安心・安楽に過ごしていただけますよう入院環境を整えるため引き続き努力して参ります。

患者さん・ご家族の皆様からいただきましたご意見を、職員とともに共有し地域の皆様が安心して来院しご利用いただけますよう職員一同精進して参ります。また、励ましや感謝の言葉は、職員にとって大きな励みとなっております。今後もより一層、患者サービス向上に取り組んで参ります。調査にご協力いただきました皆様、大変ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

全国自治体病院学会で最優秀演題に選ばれました

かたの
看護師 片野 ゆき子

第63回全国自治体病院学会にて、「大腸内視鏡検査の前処置説明動画導入後の追跡調査～二次元コードを活用して～」が、1500題を超える演題の中から最優秀演題に選ばれ表彰されました。

動画を使用した検査説明を導入したのですが、その中でも検査説明にかかる時間に長短があり、説明時間に影響を及ぼしているのはどのような要因があるのかを調査し発表させていただきました。

当初は研究の経験が少なく、知識不足もあり不安も大きかったのですが、今回の研究にあたり協力していただいた関係者の皆様のお力添えがあってこそいただけた受賞でした。大変貴重な経験ができたことに感謝いたします。ありがとうございました。



第63回全国自治体病院学会に参加して

ふなこし ち さと
副看護部長 船越 千里

2025年10月30日、31日の2日間、群馬県で行われました第63回全国自治体病院学会に参加させていただきました。「変わりゆく明日の医療紡ぎ織りなす自治体病院、シームレスな多職種連携を目指して」をテーマに、当院からは、看護・看護教育分科会から3題、臨床医学分科会から4題、薬剤分科会から1題、臨床検査分科会から1題、放射線分科会から2題、臨床工学分科会から2題、リハビリテーション分科会から1題、経営・管理部会から2題発表させていただきました。また、第62回全国自治体病院学会で最優秀演題に選出された「大腸内視鏡検査の前処置説明動画導入後の追跡調査～二次元コードを利用して～」の受賞式も行われました。どの演題も地域医療を支えるという役割を担うため、それぞれの職種が幅広い視点を持っての演題発表ではなかったかと思います。学会参加で得られる醍醐味は、やはり、臨床研究における最新の知識、看護分科会においては、人材定着、働き方改革、医療DX導入など多方面に渡った研究発表により数多くの知見を得られることです。今回、何よりも興味を持ったのが、前残業による取り組みと看護提供体制に関する演題発表でした。当院でも人材定着において、上記内容は早急に取り組まなければならない課題の一つでもあります。今回の自身の発表内容においても、今後の課題として参考となる示唆を得ることもでき、充実した2日間の学会を満喫することができました。

特別講演では、元プロ野球選手の講演を聴講させていただきました。甲子園では、投手として以外でも注目を浴びて活躍されていた姿を思い出しますが、ご本人にとっては、本来の野球での活躍以外でスポットがあたったことがかなりのストレスであったとお話ししていました。医療職者として働く私達も、それぞれに特化した専門職者として、地域中核病院の役割を果たしていくよう日々研鑽を積み、人材確保、育成を行い持続可能な医療提供体制を構築できるよう努力していきたいと思います。



第2回 健康ふれあいフェスタ

消化器内科医・外科医の先生がお話します！

14:15頃

「怖い？大腸内視鏡」
「なんだろう？腹部エコー」

小木曾 聖 消化器内科部長
澤井 裕貴 消化器内科医長

内視鏡・縫合等
体験コーナー

15:40頃

「お尻の話、きょうは本気でします」 渡邊 健次 外科部長
「大腸癌と脱腸のはなし」 曾我 耕次 外科部長

健診相談コーナー

元気がもらえる ★ パフォーマンス

14:05頃

ストリートダンスチーム
富本クラブbomboo 〈会場〉



癒しがもらえる ☘ パフォーマンス

15:00頃

ガレリアかめおか
河鹿合唱団
&手話パフォーマンスkid
虹音レイン

ガレリアかめおか

1階響ホール

参加費
無料

2026年

2/15 (日)

14:00-16:30



主催：京都中部総合医療センター 問い合わせ先：地域医療連携室 0771-42-5061

※本イベントはどなたでもご参加いただけます。

※事前予約不要です。

※当日は写真撮影を行い、広報誌・SNS等に掲載させていただく場合があります。ご了承ください。

病院公式のInstagramを始めました！
フォローをお願いします！！



@KCMC_NANTAN

助産師・看護師・ケアワーカー 募集中 !!



令和7年度 看護部新入職スタッフと共に

一緒に働く仲間、大募集
新しいこと、極めること、仲間とともに

看護師寮利用できます。(正職員) 月額 4,000 円 (税込)

詳しくはホームページをご覧下さい。



<https://www.kyoto-chubumedc-ns.com/>

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本格的に寒くなりなかなかコタツから抜け出すのが億劫になっています(笑)。さて今月号では消化器内科・外科の医師に胃がんの検査から診断治療について解説していただいています。広報誌を作りながら、改めて健診を受けることの大さを感じました。

広報誌ではこれからも皆様に健康や医療について、役立つ情報を発信していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

広報委員 M.N.

病院スタッフはマスクとゴーグルを着用して業務を行っておりますが、撮影のために一時的に外している場合があります。ご了承下さい。

MAP

